

中国人日本語学習者による日本語作文における二字漢語サ変動詞の誤用について

李 惠

1. はじめに

日本語と中国語は異なる言語であるが、(庵2008)によると、日本語にも中国語にも漢語があるため、中国人日本語学習者(以下「学習者」とする)にとって有利な点がある。一方で漢語の知識がマイナスの転移として働いて日本語運用上の誤用を引き起こす場合もあるとされている。学習者が日本語の文のなかで漢語を使用する際に悩む問題の一つが「動名詞」「漢語サ変動詞」などと呼ばれる「二字漢語+する」である(五味2006)。

日中同形の二字漢語サ変動詞(以下「二字漢語動詞」とする)の学習者における誤用はこれまでにしばしば指摘されている。

我々は祖国の発展を発展しなければならない。(発展させ)(中川2005)

日本はせまいです。でもとても発達です。(発達しています)(河住2005)

例のように、日本語には「発展する、発達する」というような中国語と同じ語形の二字漢語動詞が多く存在している。語形からみると中国語の語彙と同じであるのに、品詞性及び意味用法などの面で、中国語とずれがある場合もある。学習者にとって、二字漢語動詞は母語干渉を誘発するので、習得が困難で、誤用が生じやすいと思われる。

これまで、「二字漢語動詞」についての研究はさまざまな角度から行われてきた。河村(2005)は日本語、中国語とも動詞であるものだけに焦点を絞り、台湾の大学の日本語学習者を対象に調査をした。庵(2008)は二字漢語動詞の自他の判定を目的にして、学習者の習得状況を考察した。張(2008)は、学習者の二字漢語動詞における「二格」構文の習得状況を考察した。

本研究は先行研究を踏まえながら、日中同形の二字漢語動詞を取り上げ、日本国内の学習者の使用状況について調べ、誤用の傾向を考察する。日中それぞれの用法を比較し、誤用の原因を分析し、日本語教育の観点から二字漢語動詞の指導方法についての意見を述べる。

2. 先行研究

2.1 サ変動詞の定義と分類

庵 (2001) によると、漢語は文法的性質からいくつかに分類できる。「研究」のように、名詞として使えるとともに「する」をつけると動詞としても使えるものである。こうした語の場合「する」をつけた形をサ変動詞ということを指摘している。従って、「研究する」はサ変動詞、「研究」はサ変動詞の語幹となる。サ変動詞の語幹を動名詞、動詞的名詞ということもある。

松井 (1987) は、「サ変動詞」を漢字の字数という形式的な基準によって分類できると指摘した。二字の漢語サ変動詞の例は、負傷する、心配する、就任する、確信する、改定するなどであると指摘している。

また、国立国語研究所¹が行った、昭和41年の『朝日新聞』『毎日新聞』『読売新聞』の一年分の語彙調査の結果によると二字漢語動詞の生産性が高いことがわかる。

2.2 日中二字漢語動詞の対照に関する研究

候 (2002) は、新聞や雑誌から用例を集め、対照分析の結果、日中言語における同形語の品詞の相違を八種類に分けて指摘した。その中から二字漢語動詞の場合を抽出して、ア)日本語では名詞のほかには動詞の用法もあるが、中国語では普通は名詞としての用法しかない。イ)両方の言語には共に名詞の用法があるが、日本語では動詞の用法があるのに対して、中国語では形容詞の用法。ウ)中国語では形容詞あるいは副詞、日本語では動詞。エ)中国語では他動詞であるが、日本語では自動詞である。オ)中国語では動詞として自他両用ができるが、日本語では自動詞の用法しかないという五つの分類にまとめられるとしている。

この先行研究は品詞性の面から日中二字漢語動詞の対照分析を行った。本研究では、誤用の分析を行う場合は候 (2002) の分類方法を参考にする。

2.3 二字漢語動詞の誤用に関する研究

河住 (2005) は、学習者の漢字語彙使用に見られる問題点を文法、文体、意味、語彙にかかわる問題など以下の4分類に分類した。その中で「品詞の選択に問題を含むもの」、「文法的共起関係において問題を含むもの」、「意味的または文体的に共起しないもの」という面で学習者における二字サ変動詞の誤用問題に触れた。

中川 (2005) は細分化、文法的ずれ、抽象化と換情価値を中心に日中同形語を比較し、言語類型論の角度からずれの背景を述べた。また、日本語が典型的な自動詞型「なる」言語であって、中国語が他動詞型「する」という特徴を持っていることも指摘した。

以上の先行研究は、二字漢語動詞における誤用の原因に触れていることが見られる。

¹ 国立国語研究所(1973)『電子計算機による新聞の語彙調査(IV)』

本研究は先行研究を参考にしつつ、用例について具体的に分析していく。

3. 本研究の方法と目的

本研究では、学習者の二字漢語動詞の使用実態について調査し、その誤用の傾向と原因について分析するために、学習者による作文上の誤用を候(2002)の分類方法を参考にして以下の四種にわけた。一つの誤用例文について複数の種類の誤用が現れる場合は、学習者が日本語の二字漢語動詞の用法を学習する上での母語干渉について観察するため、今回は(1)～(4)の順に分類を優先した。誤用例文の行頭に「(卒業年数)・クラスの上級、中級・整理番号」を付した。

(1) 品詞性および自他動詞に関する誤用

例：(2010 中 18) 昔を回顧すると、感動させたことが次々と思い出される。

「感動する」は中国語では他動詞であるが、日本語では自動詞であるので、品詞のズレによって誤用が生じやすいと考えられる。ここでは「感動した」に置き換えたほうがより適切であると思われる。²

(2) 意味用法に関する誤用

例：(2009中22) 日本の文化を了解したい。

日本語の「了解する」は対象の事情や相手の意図などを理解して、納得するという意味である。中国語の「了解」と意味においてズレがあるので、学習者の一つの難点であると考えられる。「理解したい」に置き換えるのがより適切であると思われる。

(3) 活用語尾と共起性に関する誤用

例：(2010上49) 一生懸命努力すると思います。

「努力する」は意志的な動詞であり、「思う」の前に接続する場合は、「努力しよう」に置き換えたほうがより適切であると思われる。

(4) 助詞に関する誤用

例：(2009 中 40) イベントを参加したりしました。

「イベントを参加する」を「イベントに参加する」に置き換えたほうが適切である。また、「参加する」は自動詞であるため、学習者は中国語の他動詞と混同しやすいことがわかる。

本研究の目的は学習者における二字漢語動詞の使用状況を考察し、以上の誤用状況を明らかにする。また、誤用原因を具体的に検討してみたい。

² 候(2002)におけるウ)エ)オ)の分類に拠った。

4. 調査

4.1 調査概要

本調査は二字漢語動詞の使用状況を考察し、先行研究を検証するために、まず、2008・2009年及び2010年における「国書日本語学校」³の手書きで書かれた卒業文集『とわ』を対象として、学習者の作文から日中同形の二字漢語動詞が含まれている文を抽出した。抽出した例文を分類、考察した。この卒業文集は手書きで書かれ、また、日本語教師による添削を経っていないため、誤用例の分析対象として、有用であると考えられる。

4.2 調査対象

「国書日本語学校」でのクラス分けに依拠し、日本語クラスA・B・Cは上級学習者、クラスD・E・Fは中級学習者であると見なす。2008年における上級学習者15人と中級学習者10人、2009年における上級学習者39人と中級学習者32人、2010年における上級学習者38人と中級学習者38人の作文である。韓国人・モンゴル人など以外の学習者における作文を抽出し、上級学習者は全部で92人で、中級学習者は全部で80人である。作文のテーマは「もうすぐ卒業なので、話したいこと、また楽しみなこと」である。字数は300～800字である。

4.3 調査結果と考察

学習者の作文から二字漢語動詞が含まれている例文を抽出し、以下の表1にまとめた。

表1 学習者の誤用状況

	人数	学習 クラス	誤用例数(%)				正用 例数	総 数
			(1)	(2)	(3)	(4)		
2008	15人	上級	0(0%)	3(14%)	5(23%)	2(9%)	12(54%)	22
	10人	中級	1(6%)	3(19%)	0(0%)	5(31%)	7(43%)	16
2009	39人	上級	5(10%)	7(14%)	12(24%)	1(2%)	24(49%)	49
	32人	中級	2(5%)	9(23%)	4(1%)	7(18%)	18(45%)	40
2010	38人	上級	1(1%)	8(12%)	8(12%)	5(7%)	47(68%)	69
	39人	中級	5(13%)	6(16%)	3(8%)	5(13%)	19(50%)	38
総数			14	36	32	25	127	234

³ 「国書日本語学校」は東京都板橋区志村坂上にある日本語学校である。志村校と小豆沢の二つのキャンパスがあり、今回の調査は小豆沢校における学習者の作文である。本研究の対象として、国書日本語学校の許可を得た。

表1によると、上級学習者92人と中級学習者81人の作文の中から、二字漢語動詞が含まれている例文を234例抽出した。

例：(2008上19) 先生方のおかげで日本の生活に早く適応できた。

(2009上10) 自分の弱いところを克服して、成長していきたいと思います。

(2010上45) 留学生活をもっと充実させ、楽しんでいきたいと思います。

234例の中では、二字漢語動詞の誤用例は107例である。(1)品詞性に関する誤用(14例)・(2)意味用法に関する誤用(36例)・(3)語尾に関する誤用(32例)・(4)助詞に関する誤用(25例)。

例：(1)品詞性に関する誤用

(2010 上 63) 私は自分の夢を実現するため、頑張っていきたいと思います。(実現させる)

(2)意味用法に関する誤用

(2010 上 32) ストレスが解散できました。(解消できました)

(3) 活用語尾と共起性に関する誤用

(2010 上 61) 前より生活というものをもっとふかく理解してきた。(理解するようになって)

(4)助詞に関する誤用

(2010 中 19) 心から先生を感謝した。(に感謝した)

上級学習者は中級学習者より使用率が高いことがわかった。

2008年・2009年・2010年における上級学習者の正用率は中級学習者の正用率と比較して11%・4%・18%上回っていることがわかった。

2008年と2010年における上級学習者の以外、誤用率が50%を超えている。誤用率が高いことが考えられる。

全体からみると、(2)意味用法に関する誤用率が一番高い。学習者の母語干渉を受けて、日中両言語の意味を混乱することがその原因の一つと考えられるでしょう。

5. 分析

5.1 品詞性および自他動詞に関する誤用の原因

品詞性および自他動詞に関する誤用例を以下の表2にまとめた。

表2 品詞性に関する誤用例

漢語動詞	誤用例文	正用
充実する	(2008 中 3) 忙しいというより <u>充実</u> のほうがびつたりかもしれない。 (2009 中 8) 今の生活は疲れているが、 <u>充実</u> だと思ふ。 (2010中23) 皆のおかげで、とても <u>充実</u> だった。	充実の→充実しているという(充実という) 充実だ→充実している 充実だった→充実した
不足する	(2009中15) 決心した時、学校の決定、いろいろな書類の準備で時間が <u>不足</u> です。	不足です→不足した
興奮する	(2009上7) 日本で秋田県にいく新幹線の中で、やっと雪の国を見た。 <u>興奮</u> だった。	興奮だった→興奮した
緊張する	(2009上11) それから毎日、 <u>緊張</u> の勉強の中で、私たちも支え合って、試験に向かってきました。	緊張の勉強の中→緊張しながら勉強する
感動する	(2009上8) 周りの方々がいつも優しくしてくれて、 <u>感動</u> させた経験は数えきれない。 (2010中18) 昔を回顧すると、 <u>感動</u> させたことが次々と思い出される。 (2009上5) 先生たちに応援をいただいて、ほんとうに <u>感動</u> されました。	感動させた→感動した 感動されました→感動しました
実現する	(2010 中 24) 自分の夢を <u>実現</u> するために、あきらめられない。 (2010中27) 夢を <u>実現</u> するように頑張りました。 (2010上63) 私は自分の夢を <u>実現</u> するため、頑張っていきたいと思ひます。	実現する→実現させる
親切する	(2009 上 35) 先生が <u>親切</u> して、いろいろ教えてくれました。	親切して→親切にして

「充実する」は2008～2010年のいずれの作文の中にも例が見られる漢語動詞である。「2009 中 8」の文を例として、これを中国語に翻訳すると、「现在的生活虽很累但是很充实」となる。日本語では「充実する」は動詞として使われるが、中国語では形容詞として使われるため、学習者が「充実だ」、「充実だった」という誤用が生じやすい

と考えられる。ただし、「2008中3」の文では学習者が名詞として使用しているかもしれないが、語尾に関する誤用に属すると考えられる。従って、「不足する」・「興奮する」・「緊張する」も同じ原因で、誤用が生じやすい。また、品詞性に関する誤用では動詞を形容詞として使用する誤用例が一番多いことがわかった。

「感動する」は2009年・2010年に例がある。中国語では他動詞として使われるが、日本語では自動詞の用法しかない。また、「2010中18」の文を中国語に翻訳すると、「回顾过去，不禁想起很多让我感动的往事」となる。「让」を省略すると、「回顾过去，不禁想起很多我感动的往事」になって、中国語として不自然であることが感じられる。

「让」を日本語助動詞の「させる」に単純に置き換えることによって、「感動させる」という誤用が生じると考えられる。

「実現する」は2010年において三つの誤用例が出てきた。「実現する」は日本語では自動詞であって、「夢を実現させる」「夢が実現する」という形式で使われる、中国語では自他両用動詞として使われる。また、「2010中24」を中国語に翻訳すると、「为了实现自己的梦想不会放弃」になる。「实现」は他動詞であるため、誤用が生じやすいことがわかった。

日本語には「親切する」という動詞の用法がなく、「親切」は日本語では名詞、形容動詞として使われる。名詞の場合は『新明解国語辞典』⁴では「親切を尽くす」という名詞の用法が挙げられているが、普通は形容動詞として「親切的な」・「親切に」として使われる。「親切」は日本語では漢語サ変動詞になっていないが、「名詞+する」という語形を一般化させてしまい、「親切する」という誤用例が発生していると考えられる。

5.2 意味用法に関する誤用の原因

意味用法に関する誤用例を以下のように表3にまとめた。

表3 意味による誤用例

漢語動詞	誤用例文	正用
期待する	(2008中6) 毎週水曜日の授業を期待している。 (2010中33) 中国に帰ることを期待している。	期待している→楽しみにしている

⁴山田忠雄等(1997)『新明解国語辞典』第五版 三省堂

	る。	
了解する 理解する	(2009中22) 日本の文化を <u>了解</u> したい。 (2010中13) 担任の先生は私たちの状況について、とても <u>了解</u> しています。	了解し→理解し
体得する 実感する	(2009上42) 日の経つのは早いものだ」という言葉は、子供のときにあまり <u>体得</u> しなかった。	体得しなかった。→実感できなかった
申告する 連絡する	(2010上52) 休みたいときは前もって三日前までに <u>申告</u> しないと、だめです。	申告し→連絡し

「期待する」は日本語の意味は「望ましい事態の実現、好機の到来を心から待つこと(成功を期待する)」であるが、「楽しむ」は「①その物の持つよさをしみじみと味わう。(毎日の生活を楽しむ)②自分の好きな事を楽しむ(ピアノを楽しむ)③その事の早く実現することを心待ちに待つ(孫の成長を楽しむ)」という意味である。「2008 中6」と「2010 中33」における授業や帰国することが好機ではなく、自分の好きなことや早く実現することに当てはまる。また、「毎週水曜日の授業を楽しみにしている」を中国語に翻訳すると「很期待每周周三的课」になる。中国語の意味干渉で誤用が生じやすいことが見られる。

従って、日本語の「期待する」は中国語の「期待」より範囲が小さいことが言えるだろう。ここでは、「楽しみにする」に置き換えることが相応しいと考えられる。

「了解する」と「理解する」も意味表現に関する誤用の中で生じやすい例である。「了解する」は日本語の意味は「①事の内容や事情がわかって納得する。②思いやっけて事情などを容認すること」。中国語では『現代漢語大辞典』⁵「①ある物事に対して理解する、分かる、知る。②ある状況を調べたり、尋ねたりする」という意味を表わす。

「理解する」は「①物事の道理をさとりに知ること。②人の気持ちや立場がよくわかること」という意味を表す。

要するに、日本語の「了解する」は中国語の「了解」とずれがあることが言えるだろう。日本語では、「了解する」は説明によって、対象の事情や相手の意図などを理解して、納得する。「了解」は「理解」の上に、さらに相手を容認する気持ちの加わった

⁵ 阮智富等(2009)『現代漢語大辞典』上海辞書出版社

ものであると言ってもいい。日本の文化なら「理解する」などの言葉に置き換えることがより相応しいと言える。

「体得する」は中国語では「感受」という意味で、中日辞典⁶を調べると「体得する」という意味が書かれている。これは母語干渉ではなく、辞書の影響で生じた誤用である。ここでは、「実感できなかった」に置き換えることが相応しいと考えられる。

「申告する」は日本語では、「規定に従って届け出ること。狭義では、法律上の義務として行政官庁まで報告することを示す」という意味を表す。すなわち、法律上の専門用語である。ここでは、アルバイトのシフトに関することで、「連絡する」とするほうが適切であるだろう。

5.3 活用語尾と共起性に関する誤用の原因

活用語尾と共起性に関する誤用例を以下の表4にまとめた。

表4 活用語尾と共起性による誤用例

漢語動詞	誤用例文	正用
理解する	(2008 上 4) 普通の話を通して、日本人の思想も考え方についてもだんだん <u>理解</u> してきた。 (2009 上21) だんだん日本のことを <u>理解</u> して、なれました。 (2010 上61) 前より生活というものをもっとふかく <u>理解</u> してきた。 (2010 中28) 日本の社会はもっと <u>理解</u> します。	理解して→理解するようになって 理解して→理解するようになり 理解して→理解できるようになって 理解します→理解できるようになりたい
挑戦する 努力する 合格する	(2009 上28) 自分の人生に <u>挑戦</u> と思います。 (2010 中12) もっともっと成長して、新しい生活に <u>挑戦</u> していく。 (2010 上49) 一生懸命 <u>努力</u> すると思います。 (2010 上4) <u>絶対合格</u> します。	挑戦→挑戦しよう 挑戦して→挑戦していきたい 努力する→努力したい 合格します→合格したいです

⁶ 松岡栄志等(2001)『クラウン中日辞典』三省堂

解放する	(2009上4) やっと試験が終わって、山のような勉強から <u>解放</u> られた。	解放されている→解放された
独立する	(2009上49) もっと強くて <u>独立</u> している自分 ができた。	独立している→独立した

「理解する」は「理解するようになる」・「理解できるようになる」に置き換えたほうが相応しいと言える。「だんだん」・「ますます」・「もっと」などの副詞が前に付いているので、後ろも「～よう」という変化の言葉を加えないとおかしいことが感じられる。「2010中28」を例として中国語に訳すと「更加了解了日本社会。」となる。「更加」という言葉しか変化の意味を表さない、後ろに変化を表すことばがないため、誤用しやすいことが見える。これはアスペクトに関する問題であると考えられるだろう。アスペクトによる誤用が語尾に関する誤用の中では一番多いことがわかった。

「挑戦する」「努力する」「合格する」は意識してすることなので、後ろは「する」「して」という形式は問題があると言えるだろう。「したい」「しよう」とするのが自然であると考えられる。

「解放する」はヴォイスの誤用であることが考えられる。二字漢語動詞の受け身形は「～される」を接続する。これは学習者が「される」と「られる」を混同したということが考えられる。

「独立している」は「できた」とテンスを合わせるために、「独立した」とするほうが適切である。

5.4 助詞に関する誤用の原因

表5 助詞による誤用例

漢語動詞	誤用例文	正用
参加する	(2010 上 11)いろいろな活動も <u>参加</u> しました。 (2009 中 17)友たちと一緒に買い物をしたり、イベントを <u>参加</u> したり寂しくなかったです。 (2009 中 40)イベントを <u>参加</u> したりしました。 (2009 中 37)色々な活動が一緒に <u>参加</u> した。	も→にも を→に が→に

生活する	(2008上21) 初めて知らない環境に <u>生活する</u> ことは本当に不安でした。 (2010中1) 私たちは今、日本に <u>生活</u> しています。	に生活する→で生活する
体験する	(2010中34) 様々なことが <u>体験</u> した。 (2009中16) 自分にとって、中国とは違う生活が <u>体験</u> している。 (2010上59) いろいろに <u>体験</u> した。	が体験し→を体験し に体験し→体験し
その他	(2008中14) こんな問題が <u>解決</u> しました。 (2009中31) 中国では、高校で化粧することを <u>禁止</u> されている。 (2010上42) 留学に <u>決意</u> することは人生を変えるきっかけになるかもしれない	が解決→を解決 を禁止されている→は禁止されている に決意する→を決意する

「参加する」は助詞による誤用の中で、最も多いことがわかる。中国語では「参加活動」という言葉が正しいので、他動詞として使われているが、日本語では、「イベントに参加する」ではなく、「イベントに参加する」というのが正しい。この部分の語彙は「～に依頼する」、「～に感謝する」もある。同じような助詞に関する誤用では、「に」を「を」に置き換える誤用が目立つ。

「生活する」の前は場所や環境を表す場合「に」ではなく、「で」を使うべきである。中国語に翻訳すると「在～生活」になるので、「在」を考えると、一番出てくるのは日本語の助詞「に」であることだろう。助詞「に」と「で」の区別を繰り返し教えたほうが良いのではないか。

「体験する」は日本語では他動詞なので、「を」を使用すべきである。中国語を翻訳すると「体验了～」になり、自動詞用法の傾向があると考えられる。

そのほか、「解決する」は問題自体を解いたということではなく、私は日本に来て、こんな難しい問題を解決したということを表すときに、「が」ではなく、「を」を使用する。「禁止されている」の前は「化粧を禁止すること」を表し、「される」という受身形で表現する時、「は」を使用するのが適切であるだろう。「決意する」の前は目的語となるので「を」を使う必要がある。

6 まとめ

本研究では日本国内の学習者の作文を中心に考察し、二字漢語動詞の使用状況、誤

用の傾向と誤用原因を明らかにした。学習者は二字漢語動詞をよく使用することがわかったが、その誤用の傾向を(1)品詞性および自他動詞に関する誤用・(2)意味用法に関する誤用・(3)活用語尾と共起性に関する誤用・(4)助詞に関する誤用という四つのグループに分けた。誤用の原因の多くは母語の干渉であるが、辞書などの記述を不適切に参照したことによる誤用も考えられる。

日本語教育を行う際に、単に日本語を中国語に翻訳して教えると、学習者が母語の干渉で、誤用が生じやすいと言える。学習者における二字漢語動詞の誤用をできるだけ減らすために、日本語と中国語両言語を比較しながら説明したほうがいいと思われる。また、辞書や教科書などの不十分なところを学習者に指摘するのが必要であると考えられる。

参考文献

- 庵 功雄 (2001) b『中上級を教えるための日本語文法ハンドブック』スリーエネットワーク pp. 546-557
- (2008) a「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」『一橋大学留学センター紀要』第11号 pp. 47-63
- 石壁・王健康 (1983) 「日中同形語における文法的ズレ」『日本語・中国語対応表現用例集 v』日本語と中国語対照研究会編 pp. 54-67
- 加納千恵子 (2000) 「中上級学習者に対する漢字語彙教育の方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 pp. 35-46
- 河住有希子 (2005) 「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』 pp. 53-65
- 関西大学中国語教材研究会 (2011) 『中日同形語小辞典』白帝社
- 候仁峰 (2002) 「日中言語における同形語の品詞の相違についての再考察」『Quality Japanese Studies and Japanese Language Education in Kanji-Using Areas in the New Century』 pp.78-88
- 五味政信・今村和宏・石黒圭 (2006) 「日中語の品詞のズレ—二字漢語の動詞性をめぐって」『一橋大学留学センター紀要』 pp. 3-13
- 佐治圭三 (1992) 『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』ひつじ書房
- 張善実 (2008) 「漢語動詞の二格構文に関する誤用調査—中国人日本語学習者を対象に」『言葉と文化』 pp. 34-48
- 張麟声 (2007) 「日中両語の自他動詞の対照研究」第12回中国語話者のための日本

中国人日本語学習者による日本語作文における二字漢語サ変動詞の誤用について

語教育研究会 pp. 12-45

中川正之（2005）『漢語からみえる世界と世間』岩波書店 pp. 112-140

文化庁（1978）『中国語と対応する漢語—日本語教育研究資料』大蔵省印刷

松井利彦（1987）「漢語サ変動詞の表現」『国文法講座』明治書院 pp. 181-205

付記

本稿の執筆にあたりご指導くださった浅川哲也先生に御礼申し上げます。

（り けい・首都大学東京大学院博士前期課程）